

道徳授業の充実に資する ICT 活用

大阪教育大学 木原俊行

1. はじめに

道徳授業は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ために計画・実施されるものである。この叙述に示されるように、そこでは、道徳性という人間の内面世界が扱われるわけだから、道徳授業は、テクノロジーの機能が目立つきらいのある ICT 活用にはなじみにくいと、考えられやすい。しかし、ICT 活用は手段概念であるから、そのあり方が吟味されるならば、これは、道徳授業の充実に資するはずだ。

ICT 活用には、様々なレパートリーがある。本小論では、紙幅の都合上、道徳授業において特に有効であると思われる ICT 活用に関して言及する。それらは、「多様な教材の提供」「多様な考えの可視化」「議論の舞台の拡充」である。

2. 多様な教材の提供

道徳授業には、多様な教材が必要とされる。小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」でも「古典、随想、民話、詩歌などの読み物、映像ソフト、映像メディアなどの情報通信ネットワークを利用した教材、実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多彩な形式の教材」の利用が推奨されている。

本小論のテーマと関係が深いのは、「映像メディアなどの情報通信ネットワーク」である。その代表的存在として、ここでは、NHK for School の存在に言及しておこう。NHK for School は、NHK の教育サービスの 1 つである。NHK が学校向けに制作・放送している番組の視聴、授業で活用できる動画クリップの検索、番組に関連したコンテンツの活用等ができるポータルサイトである (<http://www.nhk.or.jp/school/>)。

NHK for School では、道徳授業で利用できるコンテンツが数多く配信されている。その中には、『オン・マイ・ウェイ!』や『道徳ドキュメント』といった、ドキュメンタリー番組が含まれている。それらの番組は、NHK の取材力を生かした豊かな素材が提供される、1 つの素材が有する多様な価値の構造が示唆されている、リアルな映像が

提示されるといった特長がある。それらの特性を有する教材群は、子どもたちが道徳的価値について「深く考える」ことを促してくれる。

3. 多様な考えの可視化

道徳授業においては、今も昔も、子どもたちの多様な考えが交流を企図して、話し合い活動が導入されている。しかしながら、少なからずのケースにおいて、話し合いに参加しているのはクラスの一部の子どもたちだけであるといった事態が生じていた。アナログの環境では、例えば一人ひとりの子どもが意見を発表すると膨大な時間がかかる等、全員参加の話し合いの成立には、いくつもの困難が伴う。

ICT、とりわけタブレット端末と電子黒板を組み合わせると、こうした課題を克服できる。例えば、写真1の授業では、第4学年の子どもたちが、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」ことに関する資料を読み、よりよい友人関係等について考えたことをタブレット端末に入力し、指導者がそれを電子黒板上に可視化している（大阪教育大学附属平野小学校吉松教諭による）。子

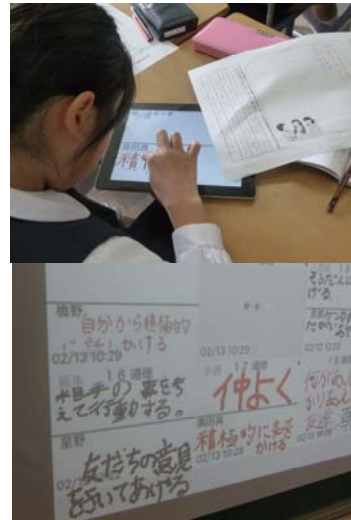


写真1 電子黒板による多様な考えの可視化
子どもたちは、電子黒板上に並んだ意見を俯瞰しつつ(タブレット端末上で閲覧しつつ)、自他の考えの異同を意識し、それを糧にして、考えをさらに深めていった。

4. 議論の舞台の拡充

写真2は、広島県のある小学校の1年生がテレビ会議システムによる協働学習に取り組んでいる様子を撮影したものである。このクラスの子どもたちは、前時に道徳教材（NHK 学校放送番組）を視聴したのだが、写真の授業において、その感想を別の小学校の子どもたちと交流した。この学校も相手校も小規模校である。いずれのクラスのメンバーも、20名を下回っている。それゆえ、通常の授業形態では、教材に関す

る反応が限定されがちである。それを豊かにするために、教師たちは、2つのクラスの子どもたちをオンラインで結びつけたのである。それによって、両校の子どもたちは、多様な考えに接することができた。

こうした交流学习は、1990年代中頃から、インターネットの教育利用が急激に進み始めて萌芽し、普及してきた。²⁾ 主として、「総合的な学習の時間」における実践において実施されてきたが、道徳授業に関しても、議論の幅を広げる舞台として、ICT活用、とりわけインターネットを介した交流学习は、存在感を増していくと思われる。



写真2 テレビ会議システムを用いた道徳の協働学習

5. おわりに

以上のように、ICTは道徳授業の充実に資する。しかしながら、授業におけるICTの活用には、いくつかの留意点がある。例えば、3で述べたような取り組みは、ICT

環境の整備を前提としているが、それは、教育関係者が期待するほど順調ではない。学校間、地域間の格差も激しい。また、4のような学習に関しては、子どもたちが情報活用の実践力を高め、情報社会に参画する態度を磨いていなければ、実施できない。それにも関わらず、情報活用能力を高めるためのカリキュラムや教材は、未成熟である。

学校における教育の情報化の課題は少なくないが、それでもなお、道徳授業の充実に、ICT活用は貢献するに違いないし、今、そのための様々なチャレンジが望まれている。

註

1) ICT活用の実践動向については、次の文書を参照されたい。

木原俊行（2012）「学校におけるICT活用の充実に向けて」『教育PRO』第43巻第3号，ERP，18-22ページ

2) 木原俊行（2014）「学校におけるデジタルメディア利用の変遷」日本放送協会放送文化研究所編『放送メディア研究 第12巻』丸善出版，57-78ページ